

先んずれば人を制す ～薬剤師がイニシアティブをとる時代へ～

日本病院薬剤師会理事
医療法人良秀会薬剤部門エリア統括
岸和田藤井病院薬剤科長
澁田 憲一 Kenichi SHIBUTA



令和2年6月より療養病床委員会の委員長に拝命致しました。平成26年度より当委員会の委員として、当時の賀勢委員長（前副会長）、棗委員長、筒井委員長（現副会長）の下、活動に携わらせていただきました。ご高名な方々の後を受け、課せられた重責に身の引き締まる思いですが、委員会、日病薬の発展と薬剤師の地位向上に微力ながら尽力致す所存ですので何卒よろしくお願い致します。

さて、我々薬剤師は高度急性期から慢性期、在宅医療までそれぞれの立ち位置での役割は様々ですが、スペシャリストであれ、ジェネラリストであれ、薬物療法支援へかかわる姿勢（意識）は同じであると考えています。薬物療法におけるどの場面においても、様々な薬学的視点を駆使して、処方意図を見極め、薬学的問題を見つけ、解決することが求められます。そのためには確かな根拠に基づく薬学的知識や薬物治療に関する最新情報を身につけ、多面（角）的に薬と患者をみる力、すなわちアセスメント力を養わなければなりません。また、チーム医療においてはコミュニケーション能力も求められます。自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、意見の違いや立場の違いを理解する。また、相手の意見を丁寧に聴き、自分の意見をわかりやすく伝える力を養うなど様々な能力が求められます。マンパワーの少ない慢性期医療の現場においては、時に薬剤師の枠を超えた多職種連携業務に介入することも多々あります。お互いの役割を理解し、薬剤師がイニシアティブをとり、相互に乗り入れることは薬剤師の存在価値を向上させ、シームレスな薬物療法支援を展開するためにも重要であると考えます。

現在、働き方改革と医療のあり方として、医師の働き方改革を進めるためのタスクシフティングが進められています。法的な問題もあるでしょうが、薬剤師にタスクシフトされる事案も多数出てくることでしょう。それは我々薬剤師にとって大いに喜ぶべき変化と考えますが、対応するためには日々の業務も整理しておかなければ、マンパワーも少ないのに業務が増えたなど負の連鎖に陥る可能性もあります。

制度が変わればもちろん求められることは変わってきますが、制度が変わらなくても時代の流れやニーズによって求められることが変わってきます。以前まで当たり前ではなかったことも当たり前になってくる。薬剤師の「当たり前」の変化へも早急に対応する必要があると考えます。

まだまだ薬剤師にはやるべきこと、やれることがたくさんあると感じます。言い換えれば、それだけ薬剤師には伸び代がある。しかし、誰かが言い出すのを待つのではなく、薬剤師自らが先陣を切ってイニシアティブをとることが厳しい時代・環境のなかで薬剤師の存在価値と地位を向上するためには必要不可欠であると考えます。

$B=f(P, E)$ 。心理学者のレヴィンは人間の行動（B：behavior）には、人間特性（P：person）と環境（E：environment）の2つが関係していると説きました。言い換えれば、薬剤師の行動は、薬剤師の特性・資質と薬剤師を取り巻く環境が関係している。すなわち、環境が変化している今だからこそ薬剤師が行動しなければならないのではないかと考えさせられます。